

研修報告

総務常任委員会

5月18日～20日

● 研修目的

△東日本大震災から大幅な防災計画の見直しの必要性から類似条件の地を研修

● 研修地

△鹿児島県 日置市と隣接する川内原子力発電所

● 研修結果

日置市は、平成17年5月に旧4町（東市来町、伊集院町、日吉町、吹上町）が合併した人口約52000人の市です。
薩摩半島のほぼ中央部に位置して南北に長く、日本三大砂丘の一つ白砂青松の吹上浜と東シナ海に面し、約40キロの海岸線を誇っています。
ただその長い海岸線に津波の影響は、過去にそれほど大きなものもなく、



むしろ台風や集中豪雨等で山間部の地すべり、林地崩壊、海岸、平野部での高潮、浸水被害などに防災対策も重点化されてきたとのことでした。

また隣接する川内原発から30キロ圏内に位置するのですが、これまで放射能漏れなど危険を感じる事故もなく、電力会社
の安全対策を信頼してきましたが、今回の東北
大震災の想定外の大被害に、防災計画の大幅な見直しをすることとなりました。

現在、川内原発の周辺9自治体が連携して、地元電力会社に対して以下の3項目（①更なる安全対策②スピーディな情報

開示③三号機建設計画長期凍結）の要望書を提出して、住民の不安に対応するよう議会も活動しているようです。

また日置市訪問の前に行った川内原子力発電所展示館では、現在稼働している原子炉とその安全性について説明を受け、さらに事前予約していた発電所内見学も嚴重な警備の中、車内より見学させてもらいました。

今後の情報交換などで災害に強いまちづくりという共通認識を確認して研修を終了しました。

● 今後の課題

海岸線と平地のみで高台も少なく50キロ圏内に原発を抱える条件を考えれば、日置市と共通する事も多い松前町です。

今後の防災計画を大幅に見直していく上で、参考になることも多く、津波、原発問題対策への関心を深め、住民の安心安全を確保していくことが緊急の課題だと感じました。

文教常任委員会

5月10日～11日

● 研修目的

△耐震化の取り組みについて

△教育振興条例について

● 研修地

△大分県日出町

